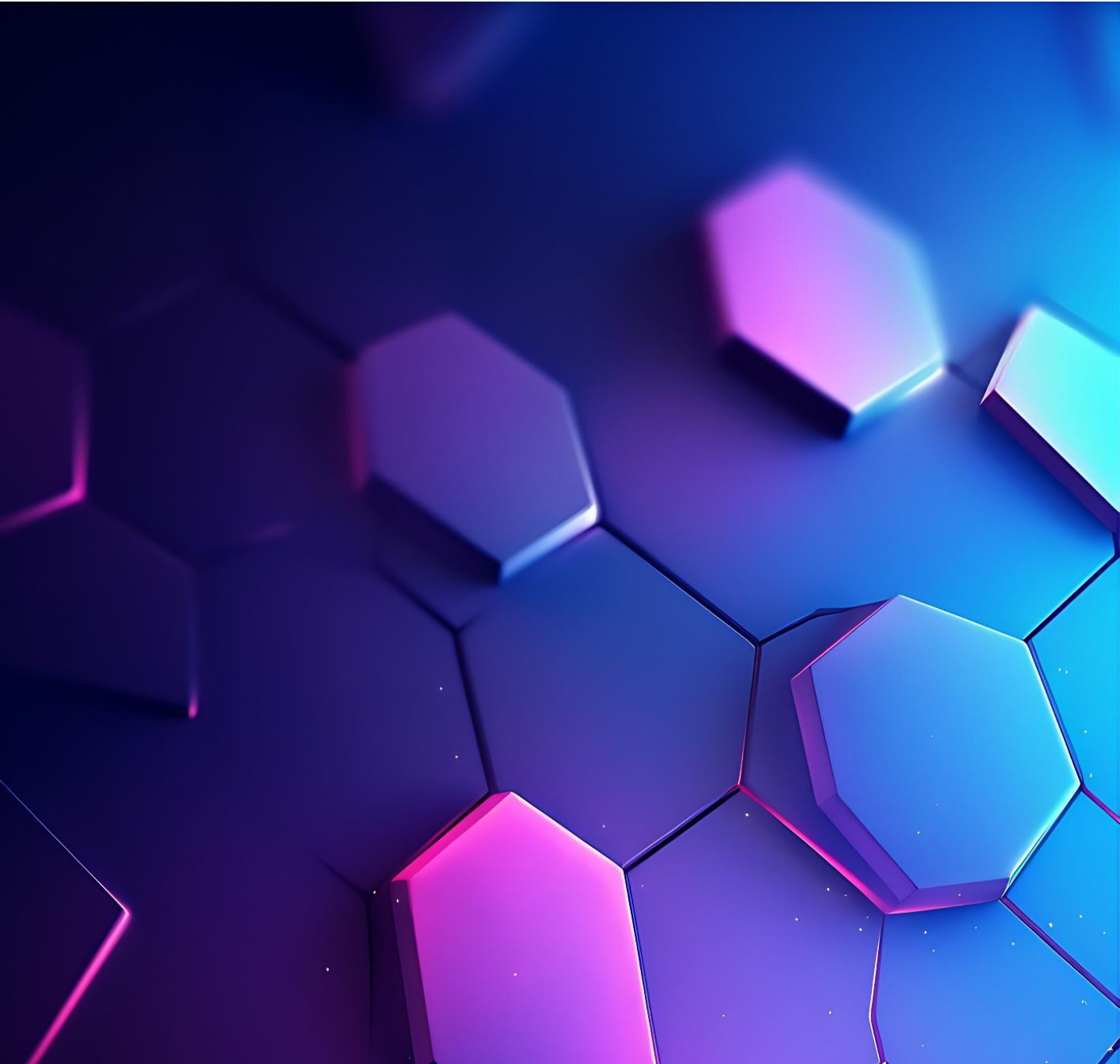


DELLTechnologies

DX 化に向けた第一歩の投資
Microsoft 365



INDEX

Section 1 『DX』について

| | |
|----------------------|-----|
| DX って一体なに？ | …04 |
| DX が必要とされる理由？ | …05 |
| DX 化がすすんでいない理由と課題とは？ | …06 |

Section 2 『Microsoft 365 について』

| | |
|------------------------------|-----|
| 新しい時代を生き抜くための Microsoft 365 | …08 |
| Microsoft 365で管理をラクに | …09 |
| Microsoft 365 についての基本機能 | …10 |
| 新しくリリースされた Teams Premium とは？ | …11 |
| Microsoft 365 にするメリットとは？ | …12 |
| ①生産性 | …13 |
| ②コラボレーション | …14 |
| ③セキュリティ | …15 |
| ④管理 | …16 |

Section 3 『プラン表・お問い合わせについて』

| | |
|---------|-----|
| プラン表 | …18 |
| お問い合わせ先 | …19 |

DX 化に向けた第一歩の投資 Microsoft 365

Section

1

DX について

このセクションの内容

| | |
|----------------------|-----|
| DX って一体なに？ | …04 |
| DX が必要とされる理由？ | …05 |
| DX 化がすすんでいない理由と課題とは？ | …06 |

DXって一体なに？

DXとはDigital Transformation（デジタルトランスフォーメーション）の略語で、日本語で「デジタル革新」という意味です。

分かりやすく噛み砕いて説明すると、ITツールやデジタルテクノロジーなどを活用して、新たなビジネスやサービスをつくり、新たな顧客価値を提供するとだけでなく、会社の成長を促進する活動といったものです。

DX化（デジタルトランスフォーメーション）が推進され、世界的にデジタルスペースへ移行しています。その背景として、働き方改革によるビジネスモデルの多様化や2025年の崖などが影響しています。

DX化が遅滞することによって、日本企業は国際競争力を失い、2025～2030年の間に約12兆円もの経済損失が発生すると経済産業省が警告しています。日本企業の多くは、老朽化や複雑化、ブラックボックス化している既存の基幹システム（レガシーシステム）が残存しており、このレガシーシステムに割くコストや人材不足が問題視され、刷新の機会を逃すと事業に大きな損失をもたらすと危惧されています。また、激化するサイバー攻撃への対応や旧システムのサポート終了によるセキュリティのリスクも抱えることとなります。

DX が必要とされる 3 つの理由



働き方の変化

2020年以降、新型コロナウイルスの感染拡大によって働き方が急激に変化しました。これからの時代の働き方は、ウィズコロナ / アフターコロナとして、ハイブリッドワークの導入やワークプレイスの多様化など柔軟な働き方が求められています。

2025年の崖

長年にわたって修正・改善を繰り返しているレガシーシステムは、システムの複雑化・肥大化が進んでおり、見直しが不十分だとデジタルシフトに時間がかかり、経営を圧迫する可能性があります。

セキュリティの脅威

セキュリティに関する脅威が巧妙化しており、悪意ある攻撃による情報漏洩やデータ流出といった被害が増加しています。また、老朽化した PC やシステムの脆弱性をついたセキュリティリスクも高まっているため、セキュリティの対策は必要不可欠です。

DX を阻む理由と課題



日本企業は DX 化が遅れているのはなぜか？

現在の日本企業では、経営層のリテラシーの低さ、企業文化、IT 人材の不足といった要因が DX 化遅滞の課題として挙げられています。

また、多くの企業がレガシーシステムを長年使用した結果、運用や保守に多くのコストを費やし「守りのIT投資」となってしまうため、新たな付加価値を生むような「攻めのIT投資」に資金や人材を振り分けることが困難になるといった課題にも直面しています。

こうしたことに加え、「そもそも必要性を感じない」「今のままでなんとかなっているから問題ない」という変革に対して消極的な意識を持った企業も多くあります。



Section

2

Microsoft 365 について

このセクションの内容

| | |
|------------------------------|-----|
| 新しい時代を生き抜くための Microsoft 365 | …08 |
| Microsoft 365 で管理をラクに | …09 |
| Microsoft 365 についての基本機能 | …10 |
| 新しくリリースされた Teams Premium とは？ | …11 |
| Microsoft 365 にするメリットとは？ | …12 |

新しい時代を 生き抜くための Microsoft 365

DX についてお話をして参りましたが、その先行投資として Microsoft 365 を推奨いたします。その理由として、コストを抑え、安心且つ効率的に DX 化の準備が出来るからです。

Microsoft 365 は、生産性向上を助ける Office アプリ、日々進化するクラウドサービス、最高水準のセキュリティをひとつにまとめたサブスクリプションサービスです。

私たち一人一人が仕事でもプライベートでも、大切なことに集中できるように設計された生産性向上のためのクラウド サービスです。

Office アプリ、Windows、Teams、OneDrive、そして Enterprise Mobility + Security といったさまざまなソリューションで構成されています。



今さら聴けない Microsoft 365 とは？



Microsoft 365 の基本的な機能とは？

Microsoft 365 はいつでも、どこでも、誰とでも仕事をする事が可能です。Web 会議やチャット、ファイル共有やビデオ通話もお使いいただけます。その他にも、業務を自動化、効率化するアプリを手軽に作れたり、AI が社員の働き方を可視化し、分析、アドバイスをしてくれたり、より効率的で無理なく働ける環境を構築することが可能です。また、紙の資料をデジタルデータにしてペーパーレス化を実現することで、A4 サイズで約 700万枚分のデータをクラウドに保存できます。

Microsoft 365 に変えることでラクになる

従来の Office アプリにあった面倒なバージョン確認やライセンスの管理は不要になります。いつでも最新の Office アプリをパソコン、タブレット、スマートフォンなど合計 15 台の端末で使うことができます。管理がラクになるだけでなく、セキュリティについても常に最新のセキュリティ対策を導入することができるので、安心してお使い頂けます。

Microsoft 365 にするメリット①



生産性の向上

Microsoft 365 は (旧 Office 365) は、Word、Excel、PowerPointなどのアプリを常に最新の機能で利用できるサブスクリプションサービスです。AIと連携した機能も豊富で働く人と組織の生産性を向上させます。Teams を使えば、チャット、電話、ミーティングなど作業ごとにアプリを変える必要なくすべてを Teams 一つで行うことができ、Outlook とも連携しているので、メールから Teams へ連絡することも可能です。

いつでも、どこでも、どのデバイスでも

Microsoft 365 はクラウド サービスなのでインターネット環境さえあれば、いつでもどこでも Outlook のメールや Excel、Word などの Office アプリにアクセスできます。Windows OS をはじめとする各種 OS に対応し、PC、タブレット、スマートフォンいずれでも利用可能です。外出中や在宅勤務でのリモートワークをしている時でもオフィスにいる時と同じように業務をこなすことができます。

Microsoft 365 にするメリット②



セキュリティの向上

日々脅威を増す攻撃から ID、アプリケーション、データ、デバイスなどを保護します。多要素認証によりユーザーを特定することで、安全なファイル共有、データやメールの保護が可能になります。また、Teams や Outlook、その他の Office アプリにあらかじめ組み込まれたセキュリティ機能がフィッシングやマルウェアから従業員を守ります。

サイバー攻撃や情報漏洩事故を防ぐ環境

Microsoft 365 が標準で提供するセキュリティ機能の代表的なものとして BitLocker、Microsoft Defender、Windows Hello があります。

BitLocker は、ハードディスクや SSD、USB などのドライブを暗号化する機能で PC の紛失、盗難、または不適切な廃棄によるデータの盗難や漏洩を防ぎます。

Microsoft Defender は、Windows に含まれているウィルス対策ソフトで、ウィルス、マルウェア、その他の脅威からデバイスを保護するのに役立ちます。Windows Hello は、PIN、顔認識または指紋を使って、プライベートでより素早くかつ安全にデバイスにログインできる技術です。パスワードレス + 多要素認証で、安全・快適にデバイスを使用することができます。

Microsoft 365 にするメリット③



作業が円滑になり一元管理が可能

クラウド上で場所を問わずに柔軟かつシンプルな管理が可能です。IT 管理者はMicrosoft Intune を使ってブラウザで管理コンソールにアクセスし、アプリやデバイス、更新プログラムやファームウェア、ドライバーを一元管理することができます。

また、Windows Autopilot なら、マスターイメージの作成や現場での展開作業が必要なくなります。

一元的に統合されたモバイルデバイス管理機能

Microsoft Intune は、モバイルデバイスとモバイルデバイスで動くアプリケーションの管理をクラウド上で行うことのできるサービスです。会社の情報へのアクセスや、データの共有方法を制限したり、ユーザーの使用するデバイスやアプリケーションをセキュリティ ポリシーに準拠するようコントロールしたりできます。同一のモバイルデバイス上でアプリやデータをプライベート用とビジネス用で切り分けることもでき、紛失や盗難時にはビジネス用のデータやアプリだけを削除する（プライベートのデータやアプリは消えません）という設定にすればたとえ個人所有のデバイスであってもセキュリティが確保できます。

Microsoft 365 にするメリット④



コラボレーション

Teams, Outlook, Office アプリを使えば、どこからでもメール、チャット、通話、会議を通じて安全にメンバーとつながることができます。メールやチャット、ファイル共有といった非同期型のコミュニケーションはもちろん、通話やオンライン会議、ドキュメントの同時編集、デジタルホワイトボードを使ったディスカッションなど、リアルタイムでのやり取りを通じてスムーズなコラボレーションが可能です。

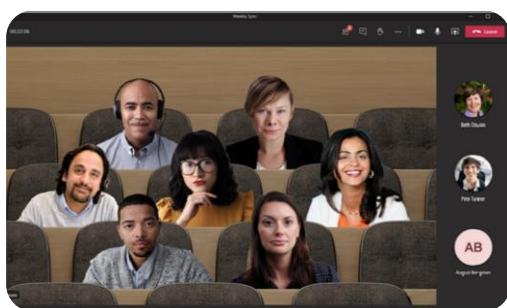
オンライン会議でリアルタイムに意見交換

Teams では、小規模なものから大規模なものまで、オンラインのビデオ会議を簡単に開催することができます。会議の開催者は Microsoft 365 のアカウントが必要ですが、参加者はアカウントを持っている必要はなく、同じ組織内のメンバーはもちろん、組織外の人も招待すれば会議に参加が可能です。参加すべきでない人が参加してしまうことの無いように、参加者がオンライン会議に入室する際、開催者が入室の許可・拒否をするという機能も備え、セキュリティも万全です。

Microsoft Teams Premium

Microsoft Teams Premium の 5 つの特長

- ① あらゆる参加者にシンプルで、パーソナライズされた会議を実施できる
- ② AI 搭載の会議で仕事をもっとスマートに
- ③ 秘密情報を安全に守る
- ④ 高度でパーソナライズされた "仮想予定" を実現
- ⑤ 高度な、質の高いウェビナーを開催



会議をユニークにする Together Mode

参加者の映像は、ひとつの空間に並べて表示されるため、発言している人に視線を向けると、参加者もその人を見ているように表示される。

これによりアイコンタクトや指さすことも可能となり、一体感が生まれやすくなるという。「Together mode」には、講堂やバーといった映像が用意され、「ラージギャラリービュー」を使えば同じ部屋に最大49人まで入室可能。また、小規模グループに分けられる「バーチャルブレイクアウトルーム」も用意される。

DX 化に向けた第一歩の投資 Microsoft 365

Section

3

プラン表 お問い合わせについて

このセクションの内容

プラン表 …18

お問い合わせ先 …19

Microsoft 365 パッケージプラン比較表

| こんな企業におすすめ! | 人数規模 | Business Plan | | | | | Enterprise | | | | | |
|-------------|--|-------------------------------------|--|---------------------------|---------------------------|----------------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------|------------------------|-----|
| | | 300名以下の企業向け | | | | | 300名以上の企業向け | | | | | |
| 特徴 | リモートワークを導入してみたい クラウドサービス色々使ってみたい ※Officeアプリ使用有無で検討 | リモートワーク | クラウドサービスを色々使ってみたい ※Officeアプリ使用有無で検討 | クラウドサービスに必要なものを一通り揃えたい | Officeアプリだけ使えれば十分 | 一通りのサービスに加え、セキュリティも特に重要なものを使用したい | 現場でのやり取りをスムーズにし、業務効率を向上したい | | Officeアプリは常に最新verで使いたい | | | |
| | | Remote work starter Plan | Business Basic | Business Standard | Business Premium | for business | E3 | E5 | F1(フロントワーク向け機能追加プラン) | F3(フロントワーク向け機能追加プラン) | for enterprise | |
| サービス名 | 説明 | 主なアプリケーション | | | | | | | | | | |
| 容量 | 月額価格/ユーザー(税抜) | ¥399 | ¥540 | ¥1,360 | ¥2,170 | ¥900 | ¥3,480 | ¥6,200 | ¥240 | ¥870 | ¥1,300 | |
| | 契約上限数 | 300名 | 300名 | 300名 | 300名 | 300名 | 制限なし | 制限なし | 制限なし | 制限なし | 制限なし | |
| | outlook | メールボックスの容量 | × | 50GB | 50GB | 50GB | × | 100GB | 100GB | × | 2GB | × |
| | sharepoint | 共有フォルダのストレージ容量 | × | 1TB/企業あたり (+10GB/ユーザー) | 1TB/企業あたり (+10GB/ユーザー) | 1TB/企業あたり (+10GB/ユーザー) | × | 1TB/企業あたり (+10GB/ユーザー) | 1TB/企業あたり (+10GB/ユーザー) | 読み取り専用 | 2GB | × |
| | One Drive for Business | 個人用のクラウドストレージ | 1TB | 1TB | 1TB | 1TB | 1TB | 1TB ※5ユーザー以上の利用で5TBに拡張可 | 1TB ※5ユーザー以上の利用で5TBに拡張可 | 2GB ※同期ファイルは利用不可 | 2GB ※同期ファイルは利用不可 | 1TB |
| | Windows OS | Windows 7/8.1/10 Proからのアップグレードライセンス | × | × | × | Windows 10 Business | × | Windows 10 E3 | Windows 10 E5 | × | Windows 10 E3 機能限定版 | × |
| Teamsの仕様 | ウェブナーの開催 (出席者登録ページ、メール確認、出席履歴レポート) | × | × | ○ | ○ | × | ○ | ○ | × | × | × | |
| | ライブイベントの開催 | × | × | × | × | × | ○ | ○ | × | × | × | |

※各アプリケーションの詳細については各アイコンのリンク先のページにてご確認ください



Microsoft 365 パッケージプラン比較表

| こんな企業におすすめ! | 人数規模 | Business Plan | | | | | Enterprise | | | | |
|-----------------------------------|--|---|--|------------------------|-------------------|----------------------------------|--|----|---|----------------------|----------------|
| | | 300名以下の企業向け | | | | | 300名以上の企業向け | | | | |
| 特徴 | リモートワークを導入してみたい クラウドサービス色々使ってみたい ※Officeアプリ使用有無で検討 | リモートワーク | クラウドサービスを色々使ってみたい ※Officeアプリ使用有無で検討 | クラウドサービスに必要なものを一通り揃えたい | Officeアプリだけ使えれば十分 | 一通りのサービスに加え、セキュリティも特に重要なものを使用したい | 現場でのやり取りをスムーズにし、業務効率を向上したい | | Officeアプリは常に最新verで使いたい | | |
| | | Remote work starter Plan | Business Basic | Business Standard | Business Premium | for business | E3 | E5 | F1(フロントワーク向け機能追加プラン) | F3(フロントワーク向け機能追加プラン) | for enterprise |
| サービス名 | 説明 | 主なアプリケーション | | | | | | | | | |
| セキュリティ | Microsoft Endpoint Configuration Manager | × | × | × | ○ | × | ○ | ○ | × | ○ | × |
| | Device Guard | × | × | × | × | × | ○ | ○ | × | ○ | × |
| | Windows Information Protection | × | × | × | ○ | × | ○ | ○ | × | ○ | × |
| | Credential Guard | × | × | × | × | × | × | ○ | × | ○ | × |
| | Microsoft 365 Defender | × | × | × | × | × | × | ○ | × | × | × |
| | Microsoft Defender for Endpoint | × | × | × | × | × | × | ○ | × | × | × |
| | Microsoft Defender for Office 365 | × | × | × | ○ | Plan1 | × | ○ | Plan2 | × | × |
| | Microsoft Defender for Identity | × | × | × | × | × | × | ○ | Plan2 | × | × |
| | データ損失防止(DLP) | × | × | × | ○ | × | × | ○ | × | × | × |
| | Microsoft セキュリティ/コンプライアンスセンター | × | ○ | ○ | ○ | × | ○ | ○ | ○ | ○ | × |
| Advanced eDiscovery | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | |
| Microsoft Defender For Office 365 | Exchange Online Protection (EOP) | スパム、フィッシング、マルウェア、バブルメール、スプーフィング、インテリジェントな偽装の検出、管理者検査、管理者によるユーザーによる誤検知と検出漏れの報告、URL およびファイルの許可/禁止、レポート | | | | | 監査ログ検索 メッセージ追跡 | | ゼロアワ-自動除去 (ZAP) 許可リストと禁止リストの組み込みテスト | | |
| | Premium Plan1 ※EOPの機能を含む | 安全な添付ファイル、安全なリンク、Microsoft Defender for Office 365 によるクラウドの保護、メール・Office クラウド・Teams でのクリック時の保護、Microsoft Defender for Office 365 のフィッシング詐欺対策、ユーザーの偽装ドメインの偽装の保護、フォームおよびアラート用 SIEM 統合 API | | | | | 検出用 SIEM 統合 API リアルタイム検出ツール URL 追跡 | | ※EOPと同様 | | |
| | Premium Plan2 ※EOP, Plan1の機能を含む | ※Plan1と同様 | | | | | 脅威エクスプローラー 脅威トラッカー キャンペーンビュー | | 自動調査と応答 (AIR) 脅威エクスプローラーからの AIR 侵害されたユーザーの AIR 自動調査用 SIEM 統合 API | | |



DELL・テクノロジーズ株式会社 <https://www.delltechnologies.com/ja-jp/>

※製品サービスの購入には、当社の販売条件 (Dell.jp/policy) 及び、当社と最終消費者の間の契約またはデータリソース契約、または、当社の再販業者またはデータリソースが指定する販売条件が適用されます。●構成や仕様により、提供が制限される場合があります。●デジタルコンテンツが提供するサービスから情報は、米国での Dell Technologies Inc. の所有または管理されています。●その他のサービスおよび製品は本社の所有または管理されています。●価格が記載されている仕様・価格は2021年9月現在のものです。記載されている仕様・価格は予告なく変更される場合があります。最新の仕様・価格については、当社営業、もしくは、当社パートナーの担当営業にお問い合わせください。

お問い合わせについて



参考URLその①

<https://japancatalog.dell.com/c/download/>



参考URLその②

<https://japancatalog.dell.com/c/download/>



参考URLその③

<https://japancatalog.dell.com/c/download/>



参考URLその④

<https://japancatalog.dell.com/c/download/>



- 製品の購入には、当社の販売条件（Dell.jp/policy）、または当社と締結済みの再販契約またはディストリビューター契約、または当社の再販業者またはディストリビューターが指定する販売条件が適用されます。
- 本カタログ掲載製品は、なくなり次第終了となります。
- Dell Technologies、及びDell Technologiesが提供する製品及びサービスにかかる商標は、米国Dell Inc.又はその関連会社の商標又は登録商標です。
- Intel、インテル、Intelロゴ、Intel Inside、Intel Insideロゴ、Intel Atom、Intel Atom Inside、Centrino、Centrino Inside、Intel Core、Core Inside、Celeron、Celeron Inside、Pentium、Pentium Insideは、アメリカ合衆国およびその他の国におけるIntel Corporationの商標です。
- AMD、AMD arrowロゴ、FirePro、ATI、ATIロゴ、Radeon、Athlon、Sempron、Turion、Opteron、ならびにその組み合わせは、Advanced Micro Devices, inc.の商標です。
- Microsoft、Windows、Windows 7、Oceロゴ、Outlook、Excel、PowerPointは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- その他の社名および製品名は各社の商標または登録商標です。
- 本カタログに記載されている仕様は2023年4月現在のものであり、予告無く仕様を変更する場合があります。
- サービス提供の詳細についてはサービスディスクリプションをご確認ください。 <https://www.dell.com/learn/jp/ja/jpcorp1/service-contracts-support-services>

デル・テクノロジーズ株式会社

〒100-8159 東京都千代田区大手町一丁目2番1号 Otemachi Oneタワー17階 Dell.co.jp